

報道関係者各位

韓日国交正常化 60 周年記念展示会 「再び描かれた世界 2025」

平素より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

この度、駐日韓国大使館 韓国文化院では、**韓日国交正常化 60 周年**を記念し、**韓国の一民美術館**と**共同で企画展「再び描かれた世界 2025」**を開催する運びとなりました。

「再び描かれた世界 2025」は韓国文化体育観光部と韓国国際交流文化振興院が海外の韓国文化院を拠点とし韓国優秀文化芸術プログラムの海外巡回をサポートする「2025 Touring K-Arts」に選定された企画です。

2022年にソウルで開かれた「再び描かれた世界：韓国画の断絶と連続」を出発点に、**韓国画のテーマ、材料、技法の拡張の可能性を探求し、日本という外部の視線を通して「伝統と現代」、「断絶と連続」という二重の背景にスポットを当てています。**展示構成は「伝統を停滞した遺産ではなく、絶えず変化する活気あふれる力として再解釈しようとする試み」として美術館所蔵作家である謙齋 鄭敷（キョムジェ チョン・ソン）、秋史 金正喜（チュサ キム・ジョンヒ）など歴史的な巨匠を紹介する一方、**2000年代以降に頭角を現した若い作家たちの作品を併置し、朝鮮時代から現代までの韓国画の系譜をご覧いただけます。**

つきましては、本イベントの周知にご協力いただけますようお願いいたします。

資料のご依頼、取材のお申し込みは、駐日韓国文化院(03-3357-5970)までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

【イベント概要】



- **会 期**：2025年8月8日(金)～10月11日(土) 10:00～17:00
※休館日：日曜日、祝日（8/11）、韓国の祝日（8/15, 10/3, 10/9）、日韓交流おまつりイベント当日（9/27）
- **会 場**：韓国文化院ギャラリーMI ◆**入場無料**
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-10
- **アクセス**：地下鉄メトロ丸ノ内線「四谷三丁目駅」一番出口より徒歩3分
- **展示内容**：謙齋 鄭敷、秋史 金正喜など歴史的な巨匠の作品からパク・グリム、ペ・ジェミンなどの現代作家が描いた韓国画 32 点の展示
- **主 催**：駐日韓国大使館 韓国文化院、一民美術館
- **後 援**：韓国文化体育観光部、韓国国際文化交流振興院、韓国文化芸術委員会

【お問い合わせ】 駐日韓国大使館 韓国文化院 ☎03-3357-5970 ◻www.koreanculture.jp
イベント担当 河聖煥（ハ・ソンファン） / 広報担当 趙恩京（ジョ・ウンギョン）

【一民美術館について】

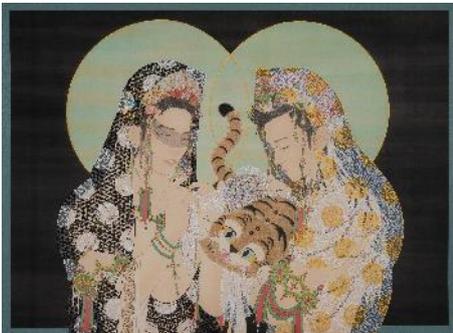


ソウル・光化門広場前に位置する一民美術館は、1996年の開館以来、芸術を通じて豊かな生活を築くことを目指し、現代美術を中心に多様な分野との協働を行ってきました。

デザインや映像、建築などを取り入れた展覧会のほか、講演やワークショップを通じて大衆との対話を重視し、同時代的な文化的議論を積極的に展開しています。また、国内唯一のドキュメンタリー・アーカイブの運営や視覚文化叢書の出版など、独自の文化的資産を築いてきました。同じ建物内には新聞博物館も併設されており、過去と現在、未来をつなぐ文化芸術の拠点としての役割も果たしています。高層ビル群

と古宮、清溪川が交差する都市の中心で、一民美術館は時代の流れを見つめる革新的な文化発信地として、今後も新たな価値創出を続けていきます。

【注目作家】



パク・グリム、〈東擇_回〉、2023、
絹にカラー、170×230cm
©写真提供：一民美術館

パク・グリム（1987生）

SNS イメージと仏画の図像を融合させ、自身の悟りの経験を表現する作家です。彼の「尋虎図」シリーズは禅宗の「尋牛図」を再解釈し、虎を自画像として、牛を周囲の人物に重ねています。

〈東擇_回〉では初心を振り返る心境が描かれ、約7年ぶりに原作を再構築しています。「ホーリー・シングス」シリーズでは仏教やカトリックの聖物を変身アイテムに見立て、現代の信仰や欲望を鋭く風刺しています。

月田 張遇聖（ウォルジョン チャン・ウソン、1912–2005）

以堂 金殷鎬（イダン キム・ウノ、1892–1979）の画室・絡青軒で学び、写実的描写と明るい彩色、繊細な筆線の特徴とする作品を初期に発表しました。1945年にはイ・ウンノ、ペ・リヨム、キム・ヨンギ、イ・ユテなどと共に檀丘美術院を結成し、**水墨彩色画の新たな方向性を模索**しました。1946年からはソウル大学で教鞭を取り、日本画から脱却し、韓国的な現代彩色画の可能性を追求しました。**強い原色の代わりに淡い色を重ねる渲染技法を用い、人物背景に自然を描き、題文を添えるなど、古典と現代の融合を試み**ました。韓国独立後は鶴を好んで描き、知識人の気品や精神性を投影しました。また、「新文人画」の構想を通じて**韓国的絵画の革新を意識的に追求**しました。彼の活動は1980年代以降も継続し、韓国画壇の変革に批評的な視点をもたらしました。



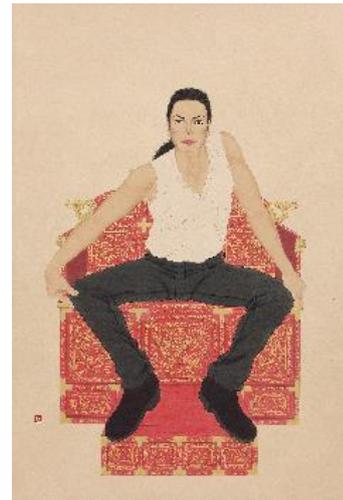
月田 張遇聖 ウォルジョン チャン・ウソン、
〈美人図〉、ca.1940s、絹にカラー、
128×65.3cm

©写真提供：一民美術館、撮影：ソウル特別市、(社)ソウル特別市美術館協議会

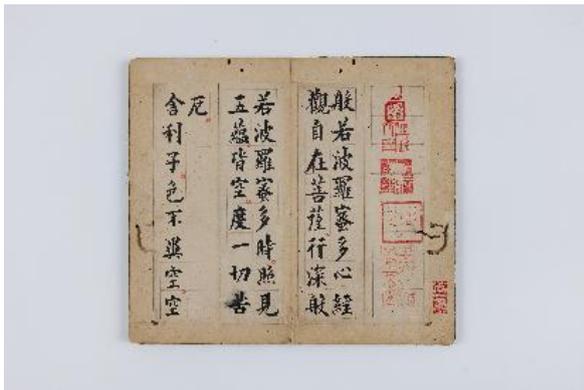
【主な作品】



チェ・ヘリ、〈兔の角〉、2018
絹にカラーおよび墨、顔料、彩色木材、79.5×58cm
©写真提供：一民美術館



ソン・ドンヒョン、〈王の肖像(イン・ザ・クローゼット)〉、2008-2009、紙に墨およびカラー、
194×130cm
©写真提供：一民美術館



秋史 金正喜 チュサ キム・ジョンヒ、〈般若心経帖〉、ca.1800s、紙および本に墨、26×15cm
©写真提供：一民美術館
撮影：ソウル特別市、(社)ソウル特別市美術館協議会



吾園 張承業 オウオン チャン・スンオブ、〈群雁図〉、ca.1800s、紙に墨、78×277cm
©写真提供：一民美術館
撮影：ソウル特別市、(社)ソウル特別市美術館協議会